

第5回 野田市生物多様性のだ戦略市民会議

日時 令和3年6月28日（月）

午後1時30分から

場所 野田市役所 低層棟4階

委員会室及びリモート参加

会 議 次 第

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 会長挨拶
- 4 第4回市民会議（書面開催）における主な意見について（報告）
- 5 議題

(1) 自然環境調査の実施状況について 【資料1】

(2) 歴史調査の報告について 【資料2-1、2-2】

(3) 社会環境調査（アンケート調査）の結果について 【資料3-1、3-2】

6 その他

7 閉会

【配布資料】

- ・委員名簿
- ・第4回市民会議（書面開催）における主な意見について
- ・資料1 自然環境調査の実施状況について
- ・資料2-1 歴史調査の報告について
- ・資料2-2 野田市江川地区の歴史&地形の魅力7選
- ・資料3-1 社会環境調査（アンケート調査）の結果について
- ・資料3-2 社会環境調査（アンケート調査）の設問と回答
- ・今後の進め方等について
- ・副読本「みつけよう！野田の魅力あふれる植物図鑑」（当日配布）

野田市生物多様性のだ戦略市民会議
委員名簿

区 分	所 属	氏 名
学識経験者	東邦大学理学部 教授	長谷川 雅美
	東京理科大学理工学部 教授	朽津 和幸
	江戸川の自然環境を考える会 代表	田中 利勝
	東葛自然と文化研究所 所長	新保 國弘
自然保護団体を 代表する者	野田自然保護連合会 代表	田中 勝美
	野田自然保護連合会 幹事	柄澤 保彦
	みどりのふるさとづくり実行委員会 会長	茂木 康男
	三ツ堀里山自然園を育てる会 幹事	土屋 守
観光協会を 代表する者	野田市観光協会 会長	黒川 茂
事業者を 代表する者	ちば東葛農業協同組合 参事	染谷 幸夫
	キッコーマン株式会社 環境部長	香西 陽一郎
	イオン株式会社 環境・社会貢献部長	鈴木 隆博
	株式会社千秋社 清水公園 園長	鈴木 哲雄
関係教育機関の 職員	野田市教育委員会 福田中学校 校長	川崎 裕幸
	野田市教育委員会 柳沢小学校 校長	村田 歩
公募に応じた 市民	公募	柳澤 朝江
	公募	岡田 壽

■事務局

野田市：今村繁副市長、宇田川克巳自然経済推進部長

みどりと水のまちづくり課：中村正則課長、池澤孝之課長補佐、野島真紀自然保護係
長、久保木史子主任主事、尾原諒主事、満田和総主事

(公財) 日本生態系協会：遠藤立、大見享子、朝見清孝

第4回市民会議（書面開催）での主な意見について（報告）

議事1（資料1）：自然環境調査の実施状況（秋季調査の結果速報）		
テーマ	主なご意見	今後の対応（事務局案）
1-1 調査結果の公表方法について	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果は、いつどのような形で公開する予定か 調査結果を分かり易く周知することも重要 	<ul style="list-style-type: none"> 密猟・盗掘防止の観点から希少種の位置が特定されないように注意して取り扱う。 市内のどこに生育生息しているかまでは記さず、市民に分かりやすく周知する方法を検討し広報する。
1-2 希少種の保護・保全や外来種の対策方法について	<ul style="list-style-type: none"> 市内の希少種をどのように保護・保全したら良いのか長期的な視点での考察が必要 アカミミガメの対策は急務ではないか、アライグマの増加も脅威である。 	<ul style="list-style-type: none"> のだ戦略における取り組み方、記載等を市民会議で審議する。
1-3 太陽光発電の施設について	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電そのものが悪影響を与えているかのような論調にならない方が良い。設置場所との調和を考え、両立できる方法が大事。 	
1-4 戦略策定後の調査について	<ul style="list-style-type: none"> 環境の改変は今後も続いていくと思われるので、定期的（3～5年毎）な調査を続けていくことが望ましい。 市域全体の調査が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> のだ戦略策定後の継続調査について、市民会議で審議する。
1-5 実施している調査について	<ul style="list-style-type: none"> 現在継続している調査の体制や方法、時期等に関するご意見。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別具体的な内容は、調査委員会や個別に確認・調整する。

議事2（資料2）：社会環境調査の実施状況（アンケート調査の実施概要）		
テーマ	主なご意見	今後の対応（事務局案）
2-1 アンケート調査の継続について	<ul style="list-style-type: none"> インターネット上や市の施設等で他にも配付可能としてはどうか？ 自然環境に対する意識の変化等を見る上で継続アンケートは必要。 	<ul style="list-style-type: none"> のだ戦略策定後の継続調査について、市民会議で審議する。
2-2 参考資料について（アンケートに付属した資料）	<ul style="list-style-type: none"> （設問に挙げた動植物の）写真があり分かりやすかった。 食物連鎖の生態ピラミッドの説明を加えた方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の参考としたい。
2-3 その他	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの集計結果が楽しみ。 結果を公表し今後の取組の参考にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の結果は、今回の市民会議で審議する。

議事3（資料3）：企業等委員への個別ヒアリングの実施状況

テーマ	主なご意見	今後の対応（事務局案）
3-1 企業等との連携方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、行政、企業、大学の連携した取組を行うことは重要。 ・戦略の策定後（施策）に企業として具体的に（資金援助、人的等）どのような支援が可能か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政・企業・大学の連携や企業のSDGs等の取組等について、のだ戦略での取り組み方を市民会議で審議する。
3-2 企業・大学所有地における希少種の保護・保全について	<ul style="list-style-type: none"> ・特に植物の希少種を保護・保全する観点から企業・大学所有地での生育環境の維持に期待する。 ・東京理科大学理窓会記念公園という素晴らしい場所は、大学生と市民のふれあいの場として、これからも期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業・大学等の所有地で希少な植物の生育が維持されるよう、また、市民協働での保全管理等について、市民会議での見直しと並行して個別に提案・相談する。
3-3 市内企業・大学等の取組の広報について	<ul style="list-style-type: none"> ・無理のない範囲で野田市のホームページで情報を広報してほしい。 ・まずは情報の共有が大事。 ・無農薬・減農薬の農業をもっと宣伝、広報を強く発信してほしい。 ・東京理科大学理窓会記念公園での活動は、もっと市民の方にも知って頂きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の保全等に関する発信方法を市民会議で審議する。
3-4 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・企業各社の考えや活動が伝わり、良かった・理解できた。 ・市民（消費者）も便利さだけを求める意識を変える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も市民意識に働きかけていきたい。

議事4（資料4）：今後の進め方等について

テーマ	主なご意見	今後の対応（事務局案）
4-1 市のホームページ上での広報について	<ul style="list-style-type: none"> ・閲覧回数が多い「コウノトリ放鳥情報」の中に戦略の取組を載せることはアクセス増加が期待され、広く一般に市の保護行政を知ってもらうために有効。 ・市に在住、在学、在勤の市民が、常に多様な情報に触れることができるよう工夫してほしい。 ・積極的な情報公開が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページ「コウノトリ放鳥情報」の中に、「コウノトリも住めるまちづくり」のコーナーを設け、「生物多様性のだ戦略」の基本情報を掲載した。今後、興味深い情報を提供していきたい。
4-2 今後の会議等の進め方について	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り顔を合わせた会議がしたい。 ・随時、キャンペーンを図るべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、充実した市民会議を実施したい。
4-3 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちには時間をかけながら普及広報を続ける必要がある ・教材「野田のわくわくいっぱい植 	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代に向けた普及広報について市民会議で審議する。

	物図鑑」との連携が望ましい。	
5. その他：自由意見		
テーマ	主なご意見	今後の対応（事務局案）
5-1 戦略に記載する内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 策定後、具体的に（市民に分かりやすく）何をするか検討すべき。 ・ 戦略は、街づくり、SDGs、地球温暖化対策と調和する方向性を示すのが良い。 ・ 生物について、全ての種の目録を作成するのか、市内の生物の案内パンフレットのようなものにするか、学術的に文献として引用できるようなものにするのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、市民会議において改訂版戦略（案）を提示した際に議論する。
5-2 広報活動等の重要性について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が日常的にさまざまな活動を行う際に参考にできるよう、広報活動が極めて重要。 ・ 教員の研修等、学校教育との連携も重要。 ・ 市民の理解と協力は不可欠であり、あらゆる機会を捉えて周知することが大事。 ・ 市の生物の中で、消えていく生物、増えていく生物など分かり易い展示を市役所や企業店舗等で行ってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ のだ戦略における取り組み方、記載等を市民会議で審議する。
5-3 観察会について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 江川地区はコウノトリだけでなく、在来の樹木、野の花が豊か。里山の良さを野田市内外に宣伝した方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 江川地区はモデル地区なので、のだ戦略における記載等を市民会議で審議する。
5-4 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田んぼの生物多様性と転作農業への影響について ・ 企業用地における希少植物の保全管理について ・ 病虫害による樹木の保全等について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な内容については、個別に確認・調整したい。

自然環境調査の実施状況について

1 自然環境調査概要

(1) 実施状況

令和2年9月より調査員の皆様のご協力で実施している自然環境調査は、秋調査（第4回市民会議資料として概要報告）及び冬季調査・春調査が終了し、3年6月から夏季調査期間に入っています。

なお、調査員から、昨年の秋調査が9月中旬開始及び天候不順であったことから、**令和3年度秋（10月めど）まで調査期間を延長したいと要望**があります。

表 対象分類群・調査実施時期（●：実施済、▲：一部追加調査要望、○：未実施）

調査時期(月)	春季	夏季	秋季	冬季	備 考
	3-5	6-8	9-11	12-2	
対象分類群					
植物	●	○	▲	—	
哺乳類	(任意調査)				他分類群調査員による任意確認報告
鳥類	●	○	▲	●	渡り、繁殖に留意
両生類・爬虫類	●※	○	▲	—	※早春季のカエル類産卵確認含む
魚類	●	○	▲	●	※冬季の生物多様性を高めることを視野に調査実施
昆虫類	●	○	▲	—	
歴史	重要拠点である「江川地区」の歴史的背景に係る調査				

表 調査体制(色付きの方は、市から直接依頼している方です)

調査対象	調査員 (※五十音順)
植物・植生	野田自然保護連合会(なかよし自然隊): 岩槻秀明氏
	三ツ堀里山自然園を育てる会: 土屋守氏
	利根運河の生態系を守る会: 柳沢朝江氏、内海陽一氏、宮原久子氏
鳥類	野田自然保護連合会(グループうえっと): 柄澤保彦氏、上原氏
	利根運河の生態系を守る会: 紺野竹夫氏
	野田自然保護連合会(野田野鳥同好会): 田中勝美氏ほか
両生類・ハ虫類	野田自然保護連合会(なかよし自然隊): 岩槻秀明氏
魚類	野田自然保護連合会(グループうえっと): 柄澤保彦氏、上原氏
	江戸川の自然環境を考える会: 田中利勝氏
昆虫類	野田自然保護連合会(なかよし自然隊): 岩槻秀明氏
	野田自然保護連合会(グループうえっと): 柄澤保彦氏、上原氏
	江戸川の自然環境を考える会: 田中利勝氏
	野田昆虫談話会: 柳澤勉氏、小泉雅弘氏、井上雅博氏、小山翔氏、石

	川和馬氏、徳永さと子氏
哺乳類	※任意調査(他分類群調査時の目撃・痕跡等情報による)
歴史	東葛自然と文化研究所:新保國弘氏

(2) 調査結果報告

すべての調査を終えましたら、調査委員会を開催の上、次回の市民会議で報告します。

2 自然環境調査（秋調査）からみえる課題について

秋調査実施を通じて各調査員から、以下のような生物多様性保全に関する課題が寄せられました。

課題1 良好な自然環境の維持管理

良好な民有地の自然を守るための市民の森や自然を活かした公園等では、管理の方法・内容が重要となります。場所によって目指す自然の姿がどうあるべきかの答えは必ずしも一つではありませんが、維持管理方法によっては、折角の自然の質が劣化してしまう恐れがあります。

また、そのような場所で、不法投棄やゴミのポイ捨てなども多く見受けられます。ゴミの散乱は、折角の美しい自然の景観を損ねるだけでなく、野生の生きものにも、水質汚濁や土壌汚染による生息環境の悪化、誤食や有害物質の生物濃縮による繁殖阻害など様々な形で悪影響を与えています。

特に人工的に作り出されたプラスチックごみは、自然界で完全に分解されることがないため、地球規模で緊急に対策をとるべき大きな問題となっています。



市民の森として市で維持管理



人目につかない場所に投棄されたゴミ

【対策について】

- 「野田市緑地保存に関する実施要綱」により、所有者と契約し、市民の森や市内の名木古木の保存を実施している（実施済）。
- 廃棄物の不法投棄は法律（「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」）で禁止されている犯罪であることの周知（実施済）。
- 近隣の小中学校や企業・事業所の参加によるゴミ拾いなどの維持管理活動を定期的に行う。
- 市が業者委託等によって維持管理を行っている場所について、人の利用と生きものの生息・生育環境の両面から、維持管理の在り方を検討する。
- 市の魅力ある場所として、市民等に広く情報発信を行う。



課題2 乱開発の防止・拠点となる自然の保全

豊かな自然が残されている場所が、次々と失われてしまうことへの危機感が多く寄せられています。樹林地や川などの他、多くの生きものを育む湿地環境を提供している水田も、年々減少傾向にあります。

野田市域の殆どが民有地でもあり、自然豊かな場所すべてにおいて人が暮らしていくための開発や用途変更を止めることはできませんが、守るべき自然環境を次世代に守りつなげることができるよう、重要性や緊急性などメリハリをつけながら、持続可能な地域づくりを長期的な視点で考える必要があります。

【対策について】

- 江川地区においては「野田市貴重な野生動植物の保護のための樹林地の保全に関する条例」の適用により保全している（実施済）。
- 太陽光発電設備の整備等については条例等を制定し、樹林地等の開発に際する届け出や住民説明会の義務付け等により、事前に開発計画を把握し、必要に応じて協議等が行えるようにしている（実施済）。
- 市内の自然環境拠点について調査を行った自然環境調査結果を元に、各調査地点を守るための方策（制度・仕組み等）を検討するとともに、保全対策の緊急度から対策の優先度を評価、優先度の高い場所から対策を実施する。

※ 太陽光発電設備の設置に係る取組について

令和3年3月議会において、「野田市太陽光発電設備の適正な設置等に関する条例」について太陽光発電設備の設置を行う事業者に対し、設置を行う前に地域住民等に対する説明会の開催及び説明会に係る報告書提出を義務付け、説明会開催や戸別訪問等による地域住民等の理解を得るよう努めるよう、一部改正を行った。

【条例の概要】

- 目的
災害の防止、良好な生活環境の維持並びに豊かな自然環境及び魅力ある景観の保全
- 適用範囲
発電出力が30キロワット以上の太陽光発電設備に係る設置事業・発電事業

課題3 希少種の保全と外来種の侵入抑制

メダカ（ミナミメダカ）は、かつて我々の身近で普通にたくさん見られていましたが、現在では全国的に絶滅が心配される種となってしまいました。野田市域においても、昔はどこにでもいたのに見られなくなってきた種は多く、もしかしたら気づかないうちに姿を消している種がいるかもしれません。

一方で、日本や野田市域にこれまで生育・生息していなかった生きもの、外来種の侵入・定着が拡大し、これまで生育・生息している生きものたちの生育・生息をおびやかすことも大きな課題となっており、実際に今回の自然環境調査でも多くの外来種が確認されています。

特にアメリカザリガニやウシガエル、アライグマなどの動物や、アレチウリなどの植物は、日本在来の生物を捕食したり、これらと競合したりして、生態系を損ねたり、人の生命・身体、農林水産業に被害を与えたりする、あるいはそうするおそれのある外来生物として「特定外来生物」に指定されています。



水田に残されていたアライグマの足跡



大繁殖しているアカミミガメ（外来種）

【対策について】

- 河川敷等におけるアレチウリの駆除活動の実施（利根運河協議会での活動）（実施済）。
- ペットの責任ある飼養と野外への放置等の禁止に関する普及啓発の実施。

課題4 ルール・マナーを守った自然の利活用

自然環境は、人が景観やレクリエーションを楽しむ場や多くの野生の生きものの生息・生育の場など、多くの機能を持っています。継続的にそれらの恩恵を継続的に受けていくため、利活用にあたっては、一定のルール・マナーを守る必要があります。

【対策について】

- 公園等で自然を守るためのルール・マナーを周知する看板を設置する（実施済）。
- 次世代に残していくために、子ども達が本来の自然を楽しんでもらえる仕組みを作る。

歴史調査の報告について

【前回戦略時の歴史調査】

豊かな自然環境は、その地域の歴史・文化とともに生まれ、残されています。

平成27年3月に策定した「生物多様性のだ戦略」では、野田の地形・自然・歴史の原点という観点から、地域で活動する市民団体等との連携・協働のもと、野田市の自然環境歴史調査を実施しました。

調査を通して、池沼に接する集落遺跡地は、食料とする動植物に恵まれた土地（生態系バランスの良い）であったこと、野田市とコウノトリの結び付きについても確認ができました。

【今回の調査】

将来にわたって、みどりのふるさとである野田の豊かな自然環境や多種多様な生き物、すなわち生物多様性を保全していくため、市内全域にわたる生物多様性の保全と回復に関する取組を計画的に進めることが重要であることから、今回の戦略改訂にあたっては、市民団体等との連携・協働のもと、農業と自然環境の結びつきという観点から、歴史調査を実施しました。

前回の戦略において、野田市のこれまでの生物多様性に係る取組を充実・強化した重点プロジェクトとして、「(5) 生物多様性のシンボルとしてのコウノトリの飼育・繁殖・野生復帰」を掲げています。そこで、関東におけるコウノトリの飼育・放鳥・行動圏調査などの発祥の地となった江川地区の歴史概要について調査しました。

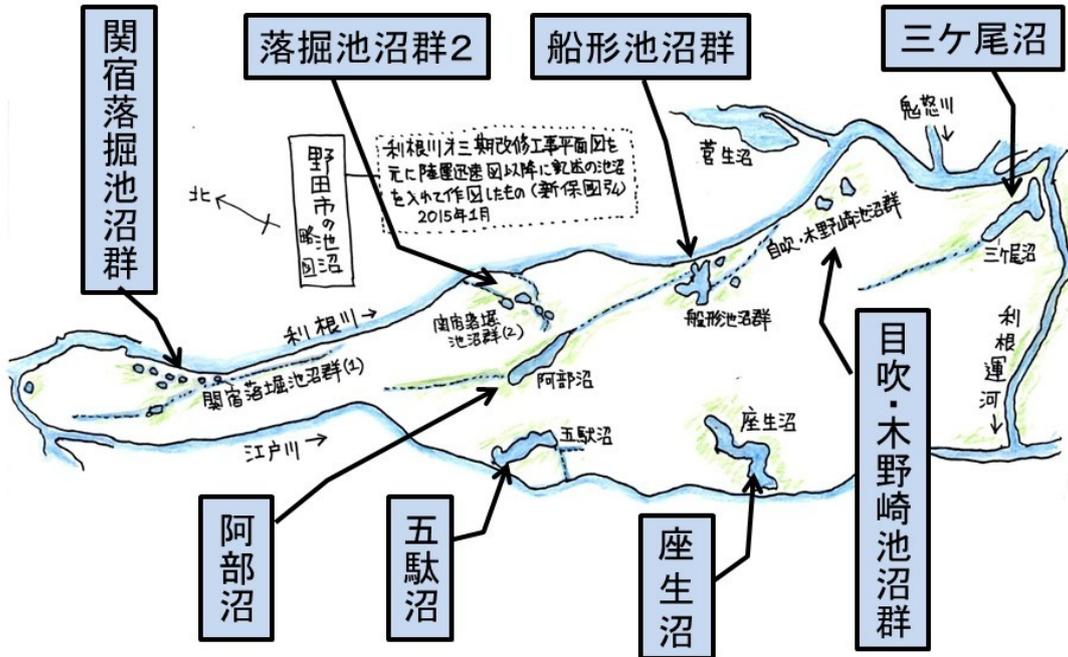
現「生物多様性のだ戦略」の重点プロジェクト

重点プロジェクト

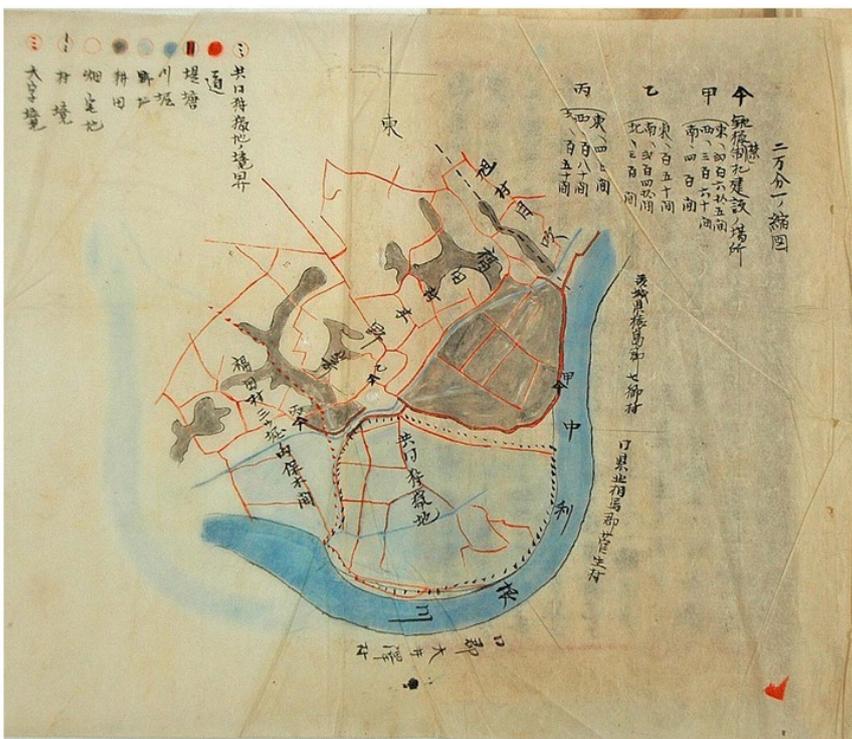
野田市では、生物多様性を実現するため、これまで進めてきた自然再生の取組を中心に、次の取組を重点的・集中的に進めます。

- (1) 環境に優しい農業の推進
- (2) 樹林地等のみどりの保全・再生
- (3) 水系エコジカル・ネットワークの保全・再生
- (4) 自然と共生する地域づくり
- (5) 生物多様性のシンボルとしてのコウノトリの飼育・繁殖・野生復帰

明治初期 野田の沼沢地略図 約300ha (作図新保)



1



木野崎共同狩猟地絵図 約60町歩
 寛保(1741)から伝承、明治39年頃
 のガン・カモ2万余羽(現・柳耕地)
 小山勇家所蔵

2